

線形代数学 II・筆答レポート (第二回 2024/01/25) 解答例

- $(a, b, c, d) = (-1 - 2s, 1 + s, -1 + s, s) = (-1, 1, -1, 0) + s(-2, 1, 1, 1)$ (s は任意の実数)
- (1) 核 ${}^t(1, -2, 1)$, 像 ${}^t(1, 1, -1, 1), {}^t(0, 1, -2, -1)$
 (2) ${}^t(-1, 2, 1, 0), {}^t(-2, 1, 0, 1)$
- (1) 固有値 $6, -2$
 $\lambda = 6$ に対する固有空間基底 ${}^t(1, 1)$
 $\lambda = -2$ に対する固有空間基底 ${}^t(5, -3)$
 (2) 固有値 0 (2 重根)
 $\lambda = 0$ に対する固有空間基底 ${}^t(2, -1)$
- (1) 固有値 2 (2 重根), 3
 $\lambda = 2$ に対する固有空間基底 ${}^t(-1, 1, 0), {}^t(-1, 0, 1)$
 $\lambda = 3$ に対する固有空間基底 ${}^t(0, 1, 0)$
 (2) $P = \begin{pmatrix} -1 & -1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \end{pmatrix}, P^{-1}AP = \begin{pmatrix} 2 & 0 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \\ 0 & 0 & 3 \end{pmatrix}$
- (1) 固有値 -3 (2 重根), 3
 $\lambda = -3$ に対する固有空間基底 ${}^t(-1, 1, 0), {}^t(1, 1, 1)$
 $\lambda = 3$ に対する固有空間基底 ${}^t(-1, -1, 2)$
 (2) $T = \begin{pmatrix} -1/\sqrt{6} & -1/\sqrt{2} & 1/\sqrt{3} \\ -1/\sqrt{6} & 1/\sqrt{2} & 1/\sqrt{3} \\ 2/\sqrt{6} & 0 & 1/\sqrt{3} \end{pmatrix}, T^{-1}AT = \begin{pmatrix} 3 & 0 & 0 \\ 0 & -3 & 0 \\ 0 & 0 & -3 \end{pmatrix}$
- $(x - y + z)^2 + (y + z)^2 - (y - z)^2$, 符号 $(2, 1)$
- 相異なる固有値の数 s に関する帰納法で示す。 $s = 1$ のときは $\mathbf{v}_1 \neq \mathbf{0}$ なので \mathbf{v}_1 は一次独立である。 $s > 1$ とし s 未満のときは成り立つと仮定する。 $\sum_{i=1}^s c_i \mathbf{v}_i = \mathbf{0}$ と仮定する。 $\mathbf{0} = A \sum_{i=1}^s c_i \mathbf{v}_i = \sum_{i=1}^s c_i \lambda_i \mathbf{v}_i$ である。一方で $\mathbf{0} = \lambda_s \sum_{i=1}^s c_i \mathbf{v}_i = \sum_{i=1}^s c_i \lambda_s \mathbf{v}_i$ である。よって $\mathbf{0} = \sum_{i=1}^{s-1} c_i (\lambda_i - \lambda_s) \mathbf{v}_i$ である。帰納法の仮定から $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_{s-1}$ は一次独立であるから $c_i (\lambda_i - \lambda_s) = 0$ ($i = 1, \dots, s-1$) であり、 $\lambda_i \neq \lambda_s$ であるから $c_i = 0$ ($i = 1, \dots, s-1$) である。このとき $\mathbf{v}_s \neq \mathbf{0}$ であるから $c_s = 0$ も成り立つ。よって $\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_s$ は一次独立である。
- \mathbf{x} を A の固有値 λ に対する固有ベクトルであるとする。 $(A\mathbf{x}, \mathbf{x}) = (\lambda\mathbf{x}, \mathbf{x}) = \lambda(\mathbf{x}, \mathbf{x})$ である。一方で A がエルミート行列であるから $(A\mathbf{x}, \mathbf{x}) = (\mathbf{x}, A\mathbf{x}) = (\mathbf{x}, \lambda\mathbf{x}) = \overline{\lambda}(\mathbf{x}, \mathbf{x})$ である。 $\mathbf{x} \neq \mathbf{0}$ だから $(\mathbf{x}, \mathbf{x}) \neq 0$ であり、よって $\lambda = \overline{\lambda}$ 、すなわち λ は実数である。
- 問 7 から λ_1, λ_2 は実数である。 $(A\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2) = (\lambda_1 \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2) = \lambda_1(\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2)$ である。一方で A がエルミート行列であるから $(A\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2) = (\mathbf{v}_1, A\mathbf{v}_2) = (\mathbf{v}_1, \lambda_2 \mathbf{v}_2) = \overline{\lambda_2}(\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2) = \lambda_2(\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2)$ である。 $\lambda_1 \neq \lambda_2$ であるから $(\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2) = 0$ である。
- $\sum_{i=0}^{\ell-1} c_i A^i = O$ とする。 $A^{\ell-1}$ をかければ $c_0 A^{\ell-1} = O$ であり、 $A^{\ell-1} \neq O$ であるから $c_0 = 0$ である。次に $A^{\ell-2}$ をかければ、同様にして $c_1 = 0$ である。同様にこれを繰り返せば $c_0 = \dots = c_{\ell-1} = 0$ となり $E, A, A^2, \dots, A^{\ell-1}$ は一次独立である。